

令和6年度シラバス(国語)

学番21 県立阿賀黎明高等学校

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	2単位	学年(学類)	1学年
使用教科書	『高等学校 言語文化』(数研出版)				
副教材等	『力をつける言語文化』(数研出版) 『古典文法クリアノート』(尚文出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①自分と社会の関係性を見つめ、他と協働しながら取り組む力を育成します。 ②複雑化する社会や地域に関心を持ち、様々な考えを受け入れる力を育成します。 ③好奇心をもって自ら学び続け本質を見極めようとする姿勢と力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	①あらゆる進路に対応できるよう3つのカリキュラムを設定します。 ②少人数制により個々にあったきめ細かな指導を行います。 ③地域と連携し、地域資源を活用した教育活動を行います。 ④生徒が興味をもった題材を地域の大人が伴走しながら探究するプロジェクト学習に取り組みます。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導計画

月	単元	教材又は項目	領域	学習活動(指導内容)	評価方法	時間
	言語文化と古文	言語文化と古文 古文の特徴	読むこと	・古文を学ぶことの意義を理解する。 ・歴史的仮名遣いを理解し、正しく音読できるようになる。	振り返りシート	1
4	古文の世界を楽しむ	「児のそら寝」 (宇治拾遺物語)	読むこと	・古文に親しみを持ち、話のおもしろさを理解する。 ・古語辞典の使い方に慣れるとともに古語と現代語の違いを理解する。 ・品詞について確認し、動詞の活用(正格活用)について理解し定着を図る。 ・積極的に児と僧の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明する。	発問評価 指名音読 小テスト・定期考査 振り返りシート	4
5	日本語の中に生きる漢文	入門一 入門二	読むこと	・訓点の用法を理解し、正しく音読できるようにする。 ・漢文の基本構造を理解する。 ・再読文字の用法について理解し、定着を図る。 ・漢文が日本語や日本文学に大きな影響を与えたことを理解し、漢文の規則を意欲的に学ぼうとする。 ※ 1学期中間考査	発問評価 指名音読 小テスト・定期考査 振り返りシート	4
6	受け継がれる古文	「羅生門」	読むこと	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 ・主人公の心情の変化を老婆との関わりからの確に読み取る。 ・小説表現の豊かさを学び、読書生活に反映させる。 ・作品の内容を踏まえて、主人公のその後を想像し、自分の考えを文章にまとめる。	発問評価 指名音読 発表・報告・調査とまとめ 小テスト・定期考査 振り返りシート	8
		「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」 (今昔物語集)	読むこと	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ・粘り強く『羅生門』と『今昔物語集』の差異を見極め、学習課題に沿って考察する。 ※ 1学期末考査		3
7	古文の世界を楽しむ	「なよ竹のかぐや姫」 (竹取物語)	読むこと	・辞書を引きながら、部分的に現代語訳ができるようにする。 ・動詞の活用(変格活用)、形容詞、形容動詞について理解し、定着を図る。 ・作品や当時の風習などを踏まえ、内容の解釈を深める。 ・『竹取物語』の派生作品について積極的に調べ、学習課題に沿って発表に取り組もうとしている。	発問評価 指名音読 発表・報告・調査とまとめ 小テスト・定期考査 振り返りシート	6
8	故事と成語	「狐借虎威」(戦国策)	読むこと	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・置き字や助詞・助動詞に注意して正確に書き下し文を書く。 ・作品や文章が成立した歴史的背景などを踏まえ、内容の解釈を深める。 ・「百獸」「虎」「狐」が何を例えているかを、解説を参考にしながら積極的に考える。	発問評価 指名音読 小テスト・定期考査 振り返りシート	4
9	現代にも生きる教え	「丹波に出雲といふ所あり」 (徒然草)	読むこと	・時を表す助動詞の用法について理解する。 ・作品や文章に表れている筆者のものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・上人の失敗の原因に結びつく記述を本文から粘り強く探し出し、今までの学習を生かして級友と話し合う。 ※ 2学期中間考査	発問評価 指名音読 話し合い 小テスト・定期考査 振り返りシート	3
10	読み継がれる歴史	「先從隗始」(十八史略)	読むこと	・比較的長い漢文に慣れ、正確に訓読できるようにする。 ・漢文の語彙や句形に注意して、正しく現代語訳できるようにする。 ・文章が成立した背景などを理解し、内容の解釈を深める。 ・中国の史伝に特徴的な簡潔な表現を味わい、そこから生まれた故事成語・成句を正しく理解しようとする。	発問評価 指名音読 小テスト・定期考査 振り返りシート	5
	和歌による心の交流	「東下り」(伊勢物語)	読むこと	・推量の助動詞の用法について理解する。 ・話の展開や構成を理解し、登場人物の行動や心情を読み取る。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・古語辞典を積極的に活用し、今までの学習を生かして本文全体を解釈しようとしている。 ※ 2学期末考査	発問評価 指名音読 話し合い 小テスト・定期考査 振り返りシート	7
12	漢詩	「静夜思」「送元二使安西」 「山行」「登高」	読むこと	・定型詩の形式や押韻、対句について理解する。 ・唐詩を読み味わい、中国文学に対する関心を高める。 ・表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・粘り強く漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を鑑賞文で表現する。	発問評価 指名音読 小テスト・定期考査 振り返りシート	6
1	語感を磨く	「側転と三夏」	読むこと	・文脈の中で語句の意味を理解し、読解に活かそうとする。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について理解を深める。 ・進んで題名の意味を解釈し、学習課題に沿って級友と話し合う。	発問評価 指名音読 話し合い 小テスト・定期考査 振り返りシート	8
2	仮名日記文学の原点	「門出」(土佐日記)	書くこと	・これまで学んだ助動詞を復習するとともに、伝聞、断定の助動詞について理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ・表現や当時の風習などを踏まえつつ、作者の心情を自らの体験に引き寄せて想像して論述しようとする。 ・旧暦や古時刻、旧国名といった古典常識について積極的に調べ、学習課題に沿って理解を深めようとする。 ※ 学年末考査	発問評価 指名音読 発表・報告・調査とまとめ 小テスト・定期考査 振り返りシート	6
3	論説の文章	「雑説」(『韓昌黎集』)	読むこと	・再読文字や句形などに留意して文章を正確に読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「雑説」が書かれた動機について、唐代中国の歴史的背景を踏まえた上で自分なりの考えをまとめる。	発問評価 指名音読 発表・報告・調査とまとめ 振り返りシート	5

書くこと	読むこと		合計
	古典	近代以降	
6	45	19	70

「1単位時間は50分」

4 評価の観点の趣旨

観点	(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

観点	(1) 知識・技能(30%)	(2) 思考・判断・表現(35%)	(3)主体的に学習に取り組む態度(35%)
評価方法	発問評価 指名音読 話し合い	発表・報告・調査とまとめ 小テスト・定期考査 振り返りシート	発問評価 話し合い 小テスト・定期考査
		発表・報告・調査とまとめ 振り返りシート	話し合い 学習課題集の提出
			読書レポート 定期考査 振り返りシート

6 担当者からの一言

「言語文化」は古文、漢文、現代の小説など創作された作品を扱う科目です。作者の作り出した世界を読み味わう中で、皆さんが積極的に発言したり、級友と討論したり、大きな声で音読したりして意欲的に取り組むことを期待しています。そして、高校の学習に必要な予習→授業→復習のサイクルを確立しましょう。